

平成28年度後期 授業改善アンケート 質問項目

【選択肢】

A そのとおりだと思う B どちらかといえば、そう思う C どちらかといえば、そう思わない D そう思わない

【設問】

	no.	設 問
学 生	1	シラバスで授業内容を確認しましたか
	2	教室では授業に積極的に取り組みましたか
	3	授業外で学習(レポートや課題を含む)をしましたか
	4	あなたはシラバスに示された「到達目標」を達成しましたか
授 業	内 容	5 授業はシラバスに記載された内容で行われましたか
		6 あなたは授業内容を理解できましたか
	教 え 方 等	7 教員の説明は明快でしたか
		8 教員の話は良く聞き取れましたか
		9 授業の進め方は、内容等を理解する上で効果的でしたか
大 学 か ら の 質 問	環 境 ・ 設 備 等	10 学習環境(人数、部屋の広さ等)は良好でしたか
		11 参考書等が図書館に揃っていますか

1.概評

この授業改善報告書は、一般教養科目110コマ(前回116コマ)、回答者数7,949名(前回9,213名)を対象としている。改訂され新しくなったFDアンケートの実施は、今回で4回目となるが、評価は全般的には若干ではあるが、右肩上がりの傾向を続けている。ほぼすべての項目において、一般教養科目の肯定評価（A評価とA+B評価）は全体のそれより下回っているが、これまで4回の傾向を見ると、その差は、大雑把に見れば徐々にではあるが、縮まってきている。なお、大学全体との差が大きい項目としては、授業への積極性を問うno. 2、授業外の学習について問うno.3、更には学習環境を問うno. 10、参考図書について問うno. 11が挙げられる。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%）、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.9 (1)	15.5 (17)	17.3 (19)	32.7 (36)	24.5 (27)	7.3 (8)	0.9 (1)	0.9 (1)	[学生] A+B評価のパーセンテージは、どの項目も90%を超えており、おおむね良好である。Aのみの評価に関しては、授業への積極性を問うno. 2、授業外の学習を問うno. 3、目標の達成を問うno. 4において、一般教養の平均は、それぞれ8.1、6.4、4.7ポイント全体平均を下回っている。この結果は、教養科目への学生のモチベーションの低さを如実に現すものであるが、教養科目の受講者数の多さ、講義形式の授業の多さも、理由の一つであろう。
	0.9 (1)	2.7 (3)	19.1 (21)	28.2 (31)	35.5 (39)	10.9 (12)	2.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.8 (2)	12.7 (14)	16.4 (18)	23.6 (26)	20.9 (23)	7.3 (8)	10.0 (11)	1.8 (2)	5.5 (6)	
	5.5 (6)	3.6 (4)	9.1 (10)	10.9 (12)	24.5 (27)	33.6 (37)	12.7 (14)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	1.8 (2)	4.5 (5)	13.6 (15)	20.9 (23)	18.2 (20)	20.0 (22)	14.5 (16)	4.5 (5)	1.8 (2)	
	2.7 (3)	11.8 (13)	13.6 (15)	30.0 (33)	26.4 (29)	15.5 (17)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	1.8 (2)	5.5 (6)	15.5 (17)	23.6 (26)	21.8 (24)	17.3 (19)	5.5 (6)	8.2 (9)	0.0 (0)	0.9 (1)	
	0.9 (1)	0.0 (0)	8.2 (9)	10.0 (11)	27.3 (30)	31.8 (35)	19.1 (21)	1.8 (2)	0.9 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.9 (1)	3.6 (4)	19.1 (21)	25.5 (28)	21.8 (24)	17.3 (19)	10.0 (11)	1.8 (2)	[授業[内容]] 講義がシラバスに沿ったものかを問うno.5及び講義内容の理解度を問うno.6の評価は、ともに高評価（no.5 A：61.0、A+B：97.0、no. 6 A：52.4、A+B：92.5）を得ており、ほぼ問題ない結果と言える。no. 5のA評価については、前回よりも4.7ポイント高くなっているが、これは、教員がシラバスの記述内容を以前に増して念頭に置いて講義を行っている結果と考えられる。
	2.7 (3)	7.3 (8)	20.9 (23)	25.5 (28)	30.9 (34)	11.8 (13)	0.0 (0)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	1.8 (2)	10.0 (11)	17.3 (19)	17.3 (19)	19.1 (21)	14.5 (16)	11.8 (13)	4.5 (5)	3.6 (4)	
	4.5 (5)	3.6 (4)	13.6 (15)	17.3 (19)	33.6 (37)	22.7 (25)	4.5 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.9 (1)	6.4 (7)	11.8 (13)	11.8 (13)	19.1 (21)	15.5 (17)	16.4 (18)	12.7 (14)	5.5 (6)	[授業[教え方等]] 説明の明快さを問うno.7と効果的な講義が行われているかを問うno. 9については、A評価は、前回は僅かではあるが上回ってはいるが、大学全体の平均と比較するとそれぞれ4.7、4.5ポイント低い評価となっている。教員各自の研鑽と工夫が望まれるが、教養教育のデザイン自体の見直しも、必要となってきたことも確かである。
	5.5 (6)	12.7 (14)	20.0 (22)	18.2 (20)	31.8 (35)	10.9 (12)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	4.5 (5)	7.3 (8)	13.6 (15)	20.9 (23)	19.1 (21)	16.4 (18)	11.8 (13)	6.4 (7)	
	8.2 (9)	10.9 (12)	20.9 (23)	22.7 (25)	28.2 (31)	8.2 (9)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.9 (1)	3.6 (4)	16.4 (18)	14.5 (16)	18.2 (20)	14.5 (16)	15.5 (17)	11.8 (13)	4.5 (5)	
	5.5 (6)	12.7 (14)	16.4 (18)	20.0 (22)	35.5 (39)	8.2 (9)	1.8 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.8 (2)	11.8 (13)	14.5 (16)	24.5 (27)	20.0 (22)	16.4 (18)	9.1 (10)	1.8 (2)	[環境・設備等] 学習環境を問うno.10の全体との差は、A評価については相変わらず大きく、8ポイントの差がある。これは、一般教養科目の定員が教室の座席数の90%を定員としていることから説明が付く。 参考図書の充実を問うno. 11については、A評価は2年前の15年度前期より7.9ポイント伸びているが、大学全体との比較では未だ6.7ポイント劣る。参考図書の充実に関しては、全体の数値に追い付けるよう、更に対策を講じていきたい。
	3.6 (4)	11.8 (13)	20.0 (22)	34.5 (38)	23.6 (26)	5.5 (6)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.9 (1)	7.3 (8)	20.0 (22)	21.8 (24)	28.2 (31)	17.3 (19)	4.5 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	2.7 (3)	13.6 (15)	29.1 (32)	25.5 (28)	25.5 (28)	3.6 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

毎回、同様の分析となるが、大学全体の評価と比べ、ほぼどの項目の評価も全体を下回っている。この差は、専門科目と一般教養科目へのモチベーションの差や、一般教養科目を1年次から専門科目と並行して開設させるカリキュラムの在り方等から、ある程度説明は付く。

この度、一般教養科目の単位数見直しが大学全体の検討課題となっている。教養教育の在り方は、各学科が学生に一般教養科目を何単位履修させるかに大きく左右され、この見直しは本学の教養教育の姿を大きく変える可能性がある。不確定要素が多く、画一的な解が望めず、個々人が好むと好まざるとに拘わらず、自らの解を求めざるを得ない現代社会において、各学問分野の知を横断的に提供する教養教育の意義は益々増していると思われる。明快な成果が見え難い教養教育への関心は一般に低く、アンケート結果にもそれが反映されている。総合教育センターとしては、この度提示された単位数見直しを、本学の教養教育のデザイン(方向性)や講義内容等の更なる見直しに繋がる絶好の契機としたい。

4.今後の方針

一般教養科目の単位数見直しについて、各学科がどのような結論を出すかによって、今後の方針は大きく変わってこようが、以下のような基本方針は変わることがないと思われる。

- ① 本学の特長である科目の多様さを活かしながら、バランスの取れた科目編成を推し進める。
- ② 哲学、宗教学、一般言語学、歴史学、社会思想史、文学、法学、経済学、社会学、政治学、数学、科学史、環境学、生物学、生命科学等々枚挙にいとまないが、学生、個人個人が将来、社会人・職業人として生きていく際の基盤を築く科目(基幹科目)の充実を図る。
- ③ 知を刺激し、その拡大を図るような科目、知ることが喜びと実感できる科目の充実を図る。
- ④ 知識・情報をインプットするだけではなく、それを判断や行動・創造へと結びつける、すなわちそれを「知恵」に変換することをシミュレートする科目の充実を図る。
- ⑤ 分野・領域を結び、総合・統合することを目指す科目を、継続して開設できるような方途を考えていく。こうした方針の一環として「総合教養研究」が開設されたが、受講者数が少なく、必ずしもうまく行っていないが、もう暫く経緯を見守り、持続可能性を探っていく。

1.概評

全ての項目について概ね高評価の平均93.18である。FD授業アンケート結果を参考にし、今までの方針を維持しながら効果を高める方法を模索したい。外国語はレベルに合わせて到達目標が明確化されているので、良質な授業内容と設備環境が学生の学習意欲や結果に結びつく好循環が読み取れる。シラバスに明記する授業内容や到達目標については実際の授業理解度と併せ更なる分析も必要となろう。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	1.0 (2)	3.6 (7)	8.9 (17)	16.7 (32)	23.4 (45)	19.8 (38)	13.0 (25)	7.3 (14)	2.6 (5)	3.6 (7)	[学生] 平均92.25で肯定的な評価が多く、前期に続き、後期の授業についても懸命に臨んでいると考えられる。特に問2と3の評価は94%で非常に高く、授業に積極的に取り組み、授業外での小テスト対策も含めて課題に真面目に取り組んでいる様子が伺える。教員は到達目標が達成できる授業内容や課題を工夫し、出席状況を高めることで、積極的に授業に取り組めるようにするのが肝要である。
	2.1 (4)	5.2 (10)	15.1 (29)	21.4 (41)	30.7 (59)	15.6 (30)	7.3 (14)	2.1 (4)	0.5 (1)	0.0 (0)	
2	0.5 (1)	2.1 (4)	6.3 (12)	8.9 (17)	17.2 (33)	21.4 (41)	19.8 (38)	15.1 (29)	6.8 (13)	2.1 (4)	
	3.1 (6)	6.3 (12)	18.2 (35)	20.8 (40)	24.0 (46)	17.2 (33)	6.8 (13)	3.1 (6)	0.5 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	1.6 (3)	2.6 (5)	10.9 (21)	14.6 (28)	24.0 (46)	21.4 (41)	14.1 (27)	7.8 (15)	3.1 (6)	
	2.6 (5)	9.9 (19)	15.6 (30)	28.1 (54)	24.5 (47)	13.0 (25)	4.7 (9)	1.6 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	3.6 (7)	10.4 (20)	13.5 (26)	22.4 (43)	16.1 (31)	18.2 (35)	9.9 (19)	4.7 (9)	0.0 (0)	1.0 (2)	
	1.0 (2)	1.0 (2)	6.8 (13)	16.1 (31)	16.7 (32)	28.6 (55)	20.3 (39)	5.7 (11)	3.1 (6)	0.5 (1)	
5	0.0 (0)	1.0 (2)	5.7 (11)	6.3 (12)	10.4 (20)	26.0 (50)	18.2 (35)	16.1 (31)	12.0 (23)	4.2 (8)	[授業[内容]] 平均95で昨年度より肯定的な評価が少し高くなり、授業内容はシラバスに記された内容が充実に行われ、教員の説明や進め方も適切と思われる。 問1～4項目でシラバス確認などの評価が高いのと連動し、徹底した予習・復習が授業内容の理解にも深く関連していると考えられる。 外国語を身につけるためには常に繰り返し学習できる方策の工夫が求められる。
	3.6 (7)	9.9 (19)	21.4 (41)	20.8 (40)	22.4 (43)	14.6 (28)	4.2 (8)	2.6 (5)	0.5 (1)	0.0 (0)	
6	1.0 (2)	1.6 (3)	11.5 (22)	13.0 (25)	14.6 (28)	20.3 (39)	18.8 (36)	10.9 (21)	4.7 (9)	3.6 (7)	
	3.6 (7)	3.6 (7)	16.7 (32)	25.0 (48)	25.5 (49)	15.1 (29)	7.3 (14)	3.1 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	1.0 (2)	2.6 (5)	6.3 (12)	5.7 (11)	9.4 (18)	17.2 (33)	12.0 (23)	15.1 (29)	16.1 (31)	14.6 (28)	[授業[教え方等]] 全体的に肯定的評価の平均点が93.33で高い評価と考えられる。しかし、前期に比べて0.87減で、昨年後期に比べると0.17減でどちらもわずかではあるが下がっている。問7と問8の肯定的な評価は高いが問9の肯定的評価が0.95下回っていることから教員の説明は明快でよく聞き取れていると感じてはいると思われる。より効果的な成果のために適切な資料選びやプレゼンの見せ方が学生の理解度とも密接な関連性があると考えられる。
	15.6 (30)	16.1 (31)	18.8 (36)	19.3 (37)	17.2 (33)	9.4 (18)	3.1 (6)	0.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	1.0 (2)	1.6 (3)	4.7 (9)	6.8 (13)	7.8 (15)	13.0 (25)	16.7 (32)	18.8 (36)	15.6 (30)	14.1 (27)	
	16.1 (31)	14.1 (27)	21.4 (41)	21.9 (42)	17.2 (33)	5.7 (11)	3.6 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.0 (2)	3.1 (6)	6.3 (12)	9.4 (18)	8.9 (17)	16.7 (32)	17.7 (34)	15.1 (29)	10.9 (21)	10.9 (21)	
	10.9 (21)	10.4 (20)	22.4 (43)	21.4 (41)	18.2 (35)	12.0 (23)	3.6 (7)	0.0 (0)	1.0 (2)	0.0 (0)	
10	0.5 (1)	0.5 (1)	2.1 (4)	6.3 (12)	4.2 (8)	14.6 (28)	19.3 (37)	24.5 (47)	20.3 (39)	7.8 (15)	[環境・設備等] 学習環境については肯定的評価が高く語学授業に適切な環境が徐々に整っていくと考えられる。これは外国語科目の受講人数を調整しているがクラスによっては少人数クラスもあることも考えられる。 No.11の評価は同年度前期と比べて2.5%も上がり、改善されてきていると分析できる。語学によっては学生が使える参考図書や学習環境が充実してきているところもあるが、全体的に学習環境を整える工夫も求められる。学生の学習意欲を高める一因になるので、図書館に幅広い図書を揃えるのは重要な役割である。
	8.9 (17)	22.4 (43)	30.7 (59)	18.2 (35)	9.4 (18)	6.8 (13)	3.1 (6)	0.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	1.0 (2)	1.6 (3)	7.3 (14)	10.4 (20)	17.7 (34)	30.7 (59)	18.8 (36)	7.8 (15)	3.6 (7)	1.0 (2)	
	2.6 (5)	4.2 (8)	20.3 (39)	26.6 (51)	24.5 (47)	15.1 (29)	5.7 (11)	0.5 (1)	0.5 (1)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

外国語習得は発音・発声・語彙・文法・会話といった語学の基礎から始めねばならないが、語学学習に伴う地道な努力は他の様々な学習とも関連している。シラバスに基づき、授業内容を充実させるとともに授業の中で到達目標を明確に示し、学生の目指すべき学習目標をわかりやすくする。語学の基礎力を高めるのに力を入れ、次のレベルに応用できる力を養う。

4.今後の方針

評価方法が各科目のAB評価(肯定的な評価)のみを示すようになっているが、その内容をよく確認し、改善すべき点を分析する必要がある。

全体的には肯定的評価だが否定的な評価も参考にしなければならない。シラバスや成績結果などを分析し、対策を検討する。

1.概評

No.11を除いて肯定的評価が約95%を超えており、全体としては良好である。学生の実態と要望に合った授業ができていると言える。ただ科目によっては課題が見られた場合もあり、非常勤講師を含めて、教職課程全体で、学生の実態と要求を把握し、授業のあり方についての共通理解を得るよう努める。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.3 (1)	8.7 (2)	13.0 (3)	30.4 (7)	30.4 (7)	8.7 (2)	4.3 (1)	[学生] これまでと同様に「授業への積極的参加」（No.2）と「授業外の学習」（No.3）は多くの科目でA評価の割合がたかくなっているのに対して、「到達目標の達成」（No.4）ではB評価が多い傾向にある。「到達目標」が学生自身に意識されるとともに、達成度が判断できるよう、目標の明確化と意識化に努める。
	0.0 (0)	13.0 (3)	43.5 (10)	13.0 (3)	17.4 (4)	13.0 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	4.3 (1)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	26.1 (6)	26.1 (6)	17.4 (4)	17.4 (4)	4.3 (1)	
	0.0 (0)	26.1 (6)	8.7 (2)	30.4 (7)	26.1 (6)	0.0 (0)	4.3 (1)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	4.3 (1)	4.3 (1)	0.0 (0)	17.4 (4)	21.7 (5)	30.4 (7)	13.0 (3)	8.7 (2)	
	4.3 (1)	26.1 (6)	26.1 (6)	21.7 (5)	17.4 (4)	0.0 (0)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	4.3 (1)	4.3 (1)	0.0 (0)	4.3 (1)	21.7 (5)	17.4 (4)	21.7 (5)	21.7 (5)	4.3 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	4.3 (1)	21.7 (5)	21.7 (5)	17.4 (4)	17.4 (4)	13.0 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.3 (1)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	8.7 (2)	0.0 (0)	13.0 (3)	17.4 (4)	39.1 (9)	13.0 (3)	8.7 (2)	[授業[内容]] 概ね良好であるが、A評価が4割以下であった科目が複数あった。自由記述からの推測であるが、内容が高度であったため難しさを感じたというよりも、授業内容と試験との整合性、配付資料などの問題による面があると思われる。
	8.7 (2)	17.4 (4)	30.4 (7)	26.1 (6)	4.3 (1)	8.7 (2)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	13.0 (3)	0.0 (0)	13.0 (3)	13.0 (3)	4.3 (1)	26.1 (6)	17.4 (4)	13.0 (3)	
	13.0 (3)	17.4 (4)	26.1 (6)	13.0 (3)	13.0 (3)	13.0 (3)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	4.3 (1)	4.3 (1)	8.7 (2)	4.3 (1)	8.7 (2)	4.3 (1)	26.1 (6)	17.4 (4)	21.7 (5)	[授業[教え方等]] 多くの科目でA評価の割合が高くなっているが、評価の傾向は「授業[内容]」とほぼ連動している。教職に関わる科目では「教え方」も学生の学びの対象であると言える。
	21.7 (5)	21.7 (5)	21.7 (5)	17.4 (4)	8.7 (2)	0.0 (0)	4.3 (1)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.3 (1)	4.3 (1)	8.7 (2)	8.7 (2)	30.4 (7)	17.4 (4)	21.7 (5)	
	21.7 (5)	21.7 (5)	30.4 (7)	13.0 (3)	4.3 (1)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.3 (1)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	4.3 (1)	4.3 (1)	4.3 (1)	4.3 (1)	8.7 (2)	17.4 (4)	17.4 (4)	21.7 (5)	17.4 (4)	
	17.4 (4)	21.7 (5)	26.1 (6)	13.0 (3)	13.0 (3)	4.3 (1)	0.0 (0)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	4.3 (1)	0.0 (0)	4.3 (1)	8.7 (2)	17.4 (4)	26.1 (6)	30.4 (7)	8.7 (2)	[環境・設備等] 教室の環境については改善が見られ、学生からの評価が高くなっているが、図書館の資料についてはまだ不十分であると感じている学生が多い。
	13.0 (3)	26.1 (6)	34.8 (8)	8.7 (2)	8.7 (2)	4.3 (1)	4.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	4.3 (1)	8.7 (2)	13.0 (3)	21.7 (5)	34.8 (8)	13.0 (3)	4.3 (1)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	13.0 (3)	26.1 (6)	34.8 (8)	8.7 (2)	8.7 (2)	8.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

教職科目は、ほぼすべてが必修であり、学生の選択の余地がない。また様々な学科の学生が履修しており、授業内容への関心も多様である。また教職を強く志望する学生と、教員免許取得のみを目指す学生が混在しており、後者が圧倒的多数である。このような如何ともし難い状況の中で、多くの学生が満足できる授業を行うのは困難ではあるが、授業の目的や内容について、常に学生に投げかけ、フィードバックを受けながら進めていく必要がある。

4.今後の方針

科目の目的をより明確にし、学生への意識づけを強化する。教員免許取得のみを希望する学生に対しても、免許取得が教員としての資質能力を保証するものであることへの自覚を促し、授業内容へのコミットメントを高める。同時に、非常勤講師を含めて、学生理解、授業運営について共通認識を持つよう、一層の情報共有とを図り、意見交換の機会を持つ。

1.概評

大学全体の肯定的評価が90%を超える結果が続いているが、当科では、前期に引き続き、共通質問11項目のうち8項目において、その肯定的評価率を超え、成果を維持している。

なお、ゼミやスキル系科目を中心とした比較的少人数の科目が高評価であることに変わりはないが、今年度からオムニバス形式とした「日本文学入門」は、「環境・設備」以外では肯定的評価率90%を超過し、前期の高評価を維持している。とくに、「授業の進め方は効果的であったか」を問うNo.9の質問に対しては、肯定的評価率が入門A Bともに100%であり、授業形態を改めた効果が十分に現れているものと考えられる。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	5.0 (5)	12.9 (13)	20.8 (21)	27.7 (28)	16.8 (17)	7.9 (8)	7.9 (8)	【学生】 No.1-4の質問事項に対し、肯定的評価率は90%超えの高止まりをしているが、No.1の項目に対してのみ、前期に比べると肯定率がやや減少した。大学生活に対する「馴れ」のためとも考えられるが、当科の場合、前期から続けて同じ科目を履修する者も少なくないため、率が伸びなかった可能性もある。 なお、No.4の「到達目標」については、新タイプのアンケートが始まって以来、最も肯定的評価率が伸び、逆に否定率は前期に比して1.3ポイント、前年度からは2.1ポイント減少した。別途学科質問で、授業の難易度について訊ねているが、「適当である」に当該するAまたはBの回答率は68.7%、難易度の内容「やや易しい」または「やや難しい」に相当するBまたはCの回答率は、有効回答率の約62%を占めている。「易しい」に当該するAと答えた者は10%となり、前期に比べ、授業が理解しにくいと感じている者が減っていることは、ここからも判る。
	7.9 (8)	11.9 (12)	31.7 (32)	22.8 (23)	18.8 (19)	6.9 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	2.0 (2)	11.9 (12)	17.8 (18)	18.8 (19)	24.8 (25)	14.9 (15)	6.9 (7)	3.0 (3)	今後の課題としては、こうした肯定率を踏まえて「いかに学生の多的好奇心を煽るか」について、各授業で検討・実践すること、およびそれら実践を学科で共有することであろう。
	3.0 (3)	7.9 (8)	20.8 (21)	22.8 (23)	21.8 (22)	22.8 (23)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (4)	5.0 (5)	10.9 (11)	17.8 (18)	21.8 (22)	25.7 (26)	8.9 (9)	5.9 (6)	【授業[内容]】 各授業は、シラバスに沿って概ね行われていたことが判る。この肯定率は非常に高く、高い大学平均を0.9ポイント上回っている。 No.6は、A評価率が前期よりさらに0.3ポイント増し、否定的評価率も前期より0.3ポイント減少している。このように授業理解度が幾らか改善されたことは、No.4の到達目標達成率の改善と連動していることが判る。今後も、有効な策を探っていきたい。
	5.9 (6)	10.9 (11)	26.7 (27)	28.7 (29)	16.8 (17)	8.9 (9)	1.0 (1)	0.0 (0)	1.0 (1)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	3.0 (3)	12.9 (13)	11.9 (12)	28.7 (29)	20.8 (21)	8.9 (9)	9.9 (10)	4.0 (4)	0.0 (0)	【授業[教え方等]】 成果としては、No.7-9に対する、肯定的回答率はすべて大学平均を上回り、且つ否定的回答率は大学平均を下回ったことである。概評にも書いたが、大人数の必修科目において肯定評価率が劇的に高まったことが、要因の一つであると考えられるが、No.8の質問に対して、前期に比して、肯定的評価率が0.5ポイント上がり、否定的評価率が0.6ポイント下がったことを踏まえると、教授側・受講側双方のスキル改善があったことが考えられる。 学科として取り組み可能な点は、今後も教員間でのアイディア共有をもとに試みて行きたいことと、学生個々の状況を細やかに捉えるべく、CAやゼミ担当者での情報共有に努めたい。
	0.0 (0)	5.9 (6)	10.9 (11)	8.9 (9)	33.7 (34)	22.8 (23)	11.9 (12)	4.0 (4)	2.0 (2)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (4)	5.9 (6)	14.9 (15)	21.8 (22)	32.7 (33)	10.9 (11)	9.9 (10)	【環境・設備等】 学習環境に関しては、No.10の質問に対しては、前期に比べて肯定的評価率が0.5ポイント上昇したが、否定的評価率は大学平均よりわずかであるが上回った。比較的大人数の科目において低評価が目立つ。 No.11の質問に対しては、授業に関する項目では満足度の高いはずの、実習系の科目で低い評価も目立つ。実習や実践が主体の科目であっても、受講者は参考書を必要としていることが判り、実習系の授業でも適宜参考書の指示などに努めたい。
	8.9 (9)	12.9 (13)	35.6 (36)	19.8 (20)	14.9 (15)	6.9 (7)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	4.0 (4)	9.9 (10)	16.8 (17)	17.8 (18)	24.8 (25)	11.9 (12)	9.9 (10)	5.0 (5)	
	4.0 (4)	11.9 (12)	17.8 (18)	28.7 (29)	19.8 (20)	15.8 (16)	2.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	2.0 (2)	4.0 (4)	6.9 (7)	8.9 (9)	14.9 (15)	23.8 (24)	22.8 (23)	16.8 (17)	
	18.8 (19)	19.8 (20)	34.7 (35)	14.9 (15)	10.9 (11)	0.0 (0)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	1.0 (1)	1.0 (1)	1.0 (1)	8.9 (9)	8.9 (9)	14.9 (15)	15.8 (16)	29.7 (30)	18.8 (19)	
	16.8 (17)	33.7 (34)	17.8 (18)	21.8 (22)	7.9 (8)	2.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	1.0 (1)	2.0 (2)	3.0 (3)	9.9 (10)	13.9 (14)	17.8 (18)	16.8 (17)	19.8 (20)	15.8 (16)	
	12.9 (13)	20.8 (21)	26.7 (27)	21.8 (22)	11.9 (12)	5.0 (5)	1.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.0 (1)	5.0 (5)	12.9 (13)	26.7 (27)	19.8 (20)	20.8 (21)	13.9 (14)	
	11.9 (12)	21.8 (22)	35.6 (36)	19.8 (20)	10.9 (11)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	2.0 (2)	4.0 (4)	14.9 (15)	27.7 (28)	22.8 (23)	16.8 (17)	9.9 (10)	2.0 (2)	
	4.0 (4)	12.9 (13)	24.8 (25)	26.7 (27)	21.8 (22)	7.9 (8)	2.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

これまで、授業に対する興味・理解・難易度のいずれもA評価がB評価を上回っているのに対し、自身の到達度に関しては、B評価をするの方が、A評価をする者よりも多い点を、問題点として分析していた。しかし、今期のアンケート結果では、ついに、到達度A評価をする者が、B評価をする者よりも上回った。

今後は、当科の学生の気質的なものを踏まえた上で、学生の知的興味を喚起する方法を、さらに検討・実践してゆく必要があるだろう。

なお、学科独自の質問に対しては、まだ無効率が高い。弛まず改善を呼びかけてゆく必要がある。

4.今後の方針

全体として、肯定的回答率が高止まりしているものの、この結果に満足せず、教員各自がそれぞれの結果を吟味し、また全体的傾向を把握することで、改善点を見出すことが第一である点是不会変わらない。

その上で、各自が教授法を磨くとともに、学生の傾向・課題点等の情報共有も肝要である。常勤教員は科会等で密に報告を行い、非常勤の先生方にはアンケートや機会ごとの聴取を怠らないように努めたい。

1.概評

今回の回答集系では、A+Bの回答比率がすべての質問において全体集計結果を上回っていた。その点を考慮すると、今学期の評価は満足できるものと考えている。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	1.4 (2)	2.8 (4)	5.0 (7)	14.9 (21)	15.6 (22)	26.2 (37)	15.6 (22)	18.4 (26)	[学生] Aの回答を見ると、問1(シラバス確認)で全学平均の15.7%、問2(授業内の積極的取組)で14.8%、問3(授業外学習)で14.4%、問4(到達目標達成)で17.9%上回っており、学生がしっかりと学習をし、到達目標に達成していたと自己評価していることがわかる。C+Dの否定的評価が全学平均を下回っていることから、真剣に取り組んでいないと自己評価する学生が少ないこともわかる。
	19.1 (27)	19.9 (28)	25.5 (36)	21.3 (30)	10.6 (15)	3.5 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	0.7 (1)	7.1 (10)	4.3 (6)	12.1 (17)	12.8 (18)	22.0 (31)	22.0 (31)	19.1 (27)	
	17.7 (25)	26.2 (37)	19.9 (28)	17.0 (24)	14.2 (20)	2.8 (4)	2.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.4 (2)	7.1 (10)	9.2 (13)	12.8 (18)	22.0 (31)	26.2 (37)	21.3 (30)	
	19.1 (27)	29.1 (41)	21.3 (30)	17.7 (25)	9.2 (13)	2.8 (4)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	0.7 (1)	1.4 (2)	7.8 (11)	9.9 (14)	18.4 (26)	19.9 (28)	17.0 (24)	15.6 (22)	9.2 (13)	
	9.2 (13)	14.2 (20)	21.3 (30)	22.0 (31)	17.0 (24)	13.5 (19)	2.8 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.7 (1)	2.1 (3)	0.7 (1)	0.7 (1)	2.8 (4)	6.4 (9)	12.8 (18)	18.4 (26)	27.0 (38)	28.4 (40)	[授業[内容]] 問5(シラバス通りの授業)、問6(学生の内容理解)については、A評価、A+B評価両方が全学平均を上回っている。一部教員の授業で問6への否定的評価(C+D)が突出して高くなっているため、授業概要を踏まえて内容の難易度の調整等も含め、当該教員と話し合う予定である。
	28.4 (40)	27.0 (38)	17.7 (25)	14.9 (21)	7.8 (11)	2.8 (4)	1.4 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	2.1 (3)	0.7 (1)	2.8 (4)	5.7 (8)	2.8 (4)	5.7 (8)	17.0 (24)	14.9 (21)	22.0 (31)	26.2 (37)	
	26.2 (37)	19.9 (28)	24.8 (35)	13.5 (19)	9.2 (13)	5.0 (7)	1.4 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	2.8 (4)	1.4 (2)	2.8 (4)	2.1 (3)	2.1 (3)	5.7 (8)	11.3 (16)	12.1 (17)	21.3 (30)	38.3 (54)	[授業[教え方等]] 問7(教員の説明の明快さ)、問8(教員の話の聞き取りやすさ)、問9(授業進行の効果性)もA評価、A+B評価は全学平均より高く、C+D評価も全学平均より低く良好である。英語科目を教えているという特性を考えても、全項目で高い評価を得ていることは満足できることである。しかしながら、D評価は全学平均よりも高く、悪い結果となっている。C+Dの評価は一部教員が突出して高くなっているので、当該教員とは個別に話し合いの機会を持つ予定である。
	39.7 (56)	21.3 (30)	17.7 (25)	9.2 (13)	5.7 (8)	5.7 (8)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	2.1 (3)	2.1 (3)	2.8 (4)	1.4 (2)	2.1 (3)	6.4 (9)	5.0 (7)	14.9 (21)	22.0 (31)	41.1 (58)	
	41.8 (59)	21.3 (30)	17.7 (25)	5.0 (7)	9.2 (13)	2.8 (4)	1.4 (2)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	2.1 (3)	2.1 (3)	2.8 (4)	4.3 (6)	1.4 (2)	3.5 (5)	12.8 (18)	17.7 (25)	19.1 (27)	34.0 (48)	
	34.8 (49)	20.6 (29)	24.8 (35)	10.6 (15)	3.5 (5)	4.3 (6)	1.4 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.4 (2)	0.7 (1)	2.1 (3)	3.5 (5)	7.8 (11)	22.7 (32)	27.7 (39)	34.0 (48)	[環境・設備等] 学習環境、図書館の設問ともにA、A+Bの肯定的評価は全学平均を上回っており、学生は学習環境と設備について満足していることが伺える。
	35.5 (50)	31.9 (45)	19.9 (28)	10.6 (15)	1.4 (2)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.7 (1)	1.4 (2)	2.1 (3)	3.5 (5)	10.6 (15)	22.0 (31)	25.5 (36)	17.0 (24)	17.0 (24)	
	19.1 (27)	20.6 (29)	27.0 (38)	25.5 (36)	4.3 (6)	2.8 (4)	0.7 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

[授業[教え方等]]の項目にも書いたが、英語科目を教えている学科でありながらも、教え方について高い評価であった点は評価している。しかし一方で、C+D評価、D評価が平均より高い教員が引き続き一部いることも事実である。

4.今後の方針

授業の質を高めるために、年度末に非常勤教師連絡会を開催し、授業の教え方について情報共有を図るFD活動を行った。また、ボストン教員が来日した際には成果物(outcome)ベースの教育方法について専任教員向けのFDも開催した。今後も授業見学及び連絡会を開催することで、組織的に教育の質を高めていきたい。授業評価の低い教員とは協働的に問題点の分析、対策を考えていきたい。

1.概評

後期開設科目のうち62科目でアンケートが実施された。全体集計結果より低い項目は3項目（問3、問10、問11）であり、肯定的評価が全体を上回ったのは7項目（問 1、問4、問5、問6、問7、問8、問9、）である。問2は、前期より高く全体平均値であった。よって今年度後期の状況から見て、前期に引き続き授業改善の効果が明らかに数値に現れていると思われる。ただ、環境と設備面での評価は、今期も全体より低い。引き続き、図書館へは文献設置の要望を積極的に行うとともに、学生には参考文献の検索や、研究方法に関する具体的な指導に力点を置きたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	1.2 (1)	6.1 (5)	12.2 (10)	24.4 (20)	30.5 (25)	11.0 (9)	8.5 (7)	6.1 (5)	[学生] シラバスを確認する項目で、前期同様、後期もポイントが平均を上回った。学生自身が履修登録方法を理解し、便覧およびシラバスの確認が重要であることの意識が高まったといえる。しかし必修科目では、選択の余地のない科目であることからか、ポイントが低い傾向にあるのではないと思われる。授業外の学習については全体平均値より低く、自身の取り組みについて反省的な評価から回答しているのではないかとと思われるが、能動的な姿勢を育み、学習意欲を高める工夫が必要であろう。
	4.9 (4)	11.0 (9)	23.2 (19)	25.6 (21)	25.6 (21)	9.8 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.2 (1)	7.3 (6)	9.8 (8)	14.6 (12)	24.4 (20)	18.3 (15)	7.3 (6)	9.8 (8)	7.3 (6)	
	7.3 (6)	6.1 (5)	13.4 (11)	25.6 (21)	20.7 (17)	18.3 (15)	7.3 (6)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	3.7 (3)	8.5 (7)	15.9 (13)	23.2 (19)	22.0 (18)	14.6 (12)	6.1 (5)	6.1 (5)	
	4.9 (4)	9.8 (8)	17.1 (14)	34.1 (28)	23.2 (19)	11.0 (9)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	1.2 (1)	1.2 (1)	14.6 (12)	17.1 (14)	26.8 (22)	19.5 (16)	12.2 (10)	1.2 (1)	4.9 (4)	1.2 (1)	
	2.4 (2)	2.4 (2)	6.1 (5)	14.6 (12)	24.4 (20)	28.0 (23)	18.3 (15)	2.4 (2)	0.0 (0)	1.2 (1)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	7.3 (6)	7.3 (6)	20.7 (17)	22.0 (18)	20.7 (17)	13.4 (11)	8.5 (7)	[授業[内容]] シラバスに記載された授業運営が行われたか、については、前期同様に向上し全体平均よりも上回った。授業内容が理解できたか、についての数値もさらに上り、全体的に教員の授業の進め方に改善が行われたものと評価したい。評価が低い科目の担当者には、学科から改善の方策について検討していただくよう申し入れる。
	7.3 (6)	14.6 (12)	25.6 (21)	20.7 (17)	19.5 (16)	11.0 (9)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	4.9 (4)	13.4 (11)	13.4 (11)	20.7 (17)	18.3 (15)	15.9 (13)	7.3 (6)	6.1 (5)	
	4.9 (4)	9.8 (8)	20.7 (17)	20.7 (17)	28.0 (23)	12.2 (10)	3.7 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	1.2 (1)	1.2 (1)	8.5 (7)	8.5 (7)	11.0 (9)	24.4 (20)	15.9 (13)	12.2 (10)	17.1 (14)	[授業[教え方等]] 説明の明快さ、よく聞き取れたか、進め方が効果的か、についてはいずれも全体平均を上回り、昨年度よりも評価が高く、教員の授業に対する取り組みや工夫が評価されたと考える。評価が低い科目の担当者については、引き続き学科から改善の方策について検討していただくよう申し入れる。
	13.4 (11)	14.6 (12)	24.4 (20)	24.4 (20)	18.3 (15)	3.7 (3)	0.0 (0)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	1.2 (1)	0.0 (0)	1.2 (1)	6.1 (5)	4.9 (4)	13.4 (11)	14.6 (12)	22.0 (18)	19.5 (16)	17.1 (14)	
	14.6 (12)	20.7 (17)	28.0 (23)	23.2 (19)	9.8 (8)	2.4 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.2 (1)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	1.2 (1)	1.2 (1)	7.3 (6)	12.2 (10)	12.2 (10)	22.0 (18)	19.5 (16)	14.6 (12)	9.8 (8)	
	8.5 (7)	14.6 (12)	23.2 (19)	26.8 (22)	20.7 (17)	4.9 (4)	0.0 (0)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	2.4 (2)	2.4 (2)	12.2 (10)	15.9 (13)	17.1 (14)	25.6 (21)	14.6 (12)	9.8 (8)	[環境・設備等] いずれの設問も全学的には下回っている。必修科目他、履修者多数の授業は、環境に関する評価が低い傾向にある。可能な限り適正な教室の確保に努め、履修者数の調整も視野に入れて対応したい。また、図書館へは必要な図書を教員・学生から要望する活動も継続するが、調査資料の検索方法や文献の用い方などの学習指導にも力点を置きたい。
	8.5 (7)	25.6 (21)	28.0 (23)	22.0 (18)	13.4 (11)	1.2 (1)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	7.3 (6)	14.6 (12)	19.5 (16)	28.0 (23)	15.9 (13)	8.5 (7)	4.9 (4)	1.2 (1)	
	4.9 (4)	4.9 (4)	18.3 (15)	29.3 (24)	22.0 (18)	14.6 (12)	6.1 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

・参考書の充実については、各科目において論文検索や地域図書館の利用など、どのような文献を資料として用いるのか、文献の性格や検索の方法について指導を徹底したい。

・各学年の学科必修科目や資格にかかわる必修科目では、シラバスの事前確認や積極的な取り組み、授業の理解に対する評価が低く出る傾向がある。このことは、授業内容への興味を高めるために、担当者の工夫の余地はあると思われるが、学生の受け身になりがちな空気が周囲に影響する場合も大きいと考える。それは同じ担当者の他の科目においては良好な結果が出ていることから裏付けられる。学生には、必修科目の意義をしっかりと理解させるよう心掛けて、学習意欲や満足感が得られるよう取り組みたい。

4.今後の方針

評価の低い項目については学科で情報を共有し、より学生の学習意欲を高め、学習に対する満足度を上げられるよう取り組みたい。

1.概評

2016年度後期にひらいた106科目のアンケートをとり、累計2,364人の回答をえた。すべての設問で今年度前期より肯定率をあげた。「About Yourself」の設問1から4が特に上昇しているのは、新入学生が大学生活に慣れたせいであろうと思われる。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	3.8 (4)	12.3 (13)	16.0 (17)	13.2 (14)	22.6 (24)	12.3 (13)	9.4 (10)	5.7 (6)	4.7 (5)	[学生] 今期も設問1のシラバス確認がもっともひくい。外国語の演習講義が多く、教科書の目次をみれば、なにを学習するかが、大体わかるから、あえて確認をしないようである。設問2, 3, 4の肯定率上昇から、留学にむけた学習が本格化して一年生の意欲がましていることがうかがわれる。
	5.7 (6)	10.4 (11)	15.1 (16)	19.8 (21)	18.9 (20)	17.9 (19)	11.3 (12)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.9 (1)	0.9 (1)	4.7 (5)	16.0 (17)	12.3 (13)	21.7 (23)	11.3 (12)	17.0 (18)	13.2 (14)	1.9 (2)	
	2.8 (3)	13.2 (14)	16.0 (17)	17.0 (18)	18.9 (20)	17.0 (18)	13.2 (14)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	1.9 (2)	5.7 (6)	6.6 (7)	17.9 (19)	18.9 (20)	17.9 (19)	17.9 (19)	7.5 (8)	5.7 (6)	
	4.7 (5)	10.4 (11)	17.0 (18)	20.8 (22)	22.6 (24)	17.9 (19)	4.7 (5)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	
4	4.7 (5)	3.8 (4)	16.0 (17)	18.9 (20)	19.8 (21)	13.2 (14)	10.4 (11)	7.5 (8)	4.7 (5)	0.9 (1)	
	0.9 (1)	5.7 (6)	10.4 (11)	13.2 (14)	13.2 (14)	29.2 (31)	17.9 (19)	7.5 (8)	1.9 (2)	0.0 (0)	
5	0.9 (1)	0.0 (0)	5.7 (6)	10.4 (11)	13.2 (14)	17.9 (19)	20.8 (22)	12.3 (13)	11.3 (12)	7.5 (8)	[授業[内容]] これらの設問も前期とくらべて上昇している。+0.9, +0.4.
	7.5 (8)	12.3 (13)	16.0 (17)	23.6 (25)	17.0 (18)	17.0 (18)	4.7 (5)	1.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.9 (1)	1.9 (2)	5.7 (6)	15.1 (16)	10.4 (11)	18.9 (20)	21.7 (23)	14.2 (15)	6.6 (7)	4.7 (5)	
	4.7 (5)	7.5 (8)	17.9 (19)	22.6 (24)	20.8 (22)	17.0 (18)	5.7 (6)	3.8 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.9 (1)	3.8 (4)	6.6 (7)	10.4 (11)	16.0 (17)	11.3 (12)	19.8 (21)	15.1 (16)	16.0 (17)	[授業[教え方等]] これらの設問も前期とくらべて上昇している。前期比はそれぞれ+0.5, +0.4%.
	17.9 (19)	15.1 (16)	20.8 (22)	14.2 (15)	17.9 (19)	12.3 (13)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	3.8 (4)	7.5 (8)	6.6 (7)	18.9 (20)	13.2 (14)	17.0 (18)	15.1 (16)	17.9 (19)	
	18.9 (20)	14.2 (15)	20.8 (22)	16.0 (17)	17.9 (19)	10.4 (11)	0.9 (1)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	6.6 (7)	9.4 (10)	9.4 (10)	16.0 (17)	15.1 (16)	16.0 (17)	15.1 (16)	12.3 (13)	
	14.2 (15)	14.2 (15)	19.8 (21)	19.8 (21)	15.1 (16)	12.3 (13)	3.8 (4)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.9 (2)	7.5 (8)	8.5 (9)	16.0 (17)	17.9 (19)	17.9 (19)	17.9 (19)	12.3 (13)	[環境・設備等] 学生の評価はたかいものの（肯定率95.9%），3号館の学習環境が良好とはとてもいえない。とくに昨今要求されるところのアクティブラーニングには適していない。
	16.0 (17)	16.0 (17)	24.5 (26)	18.9 (20)	13.2 (14)	7.5 (8)	2.8 (3)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.9 (1)	0.0 (0)	5.7 (6)	14.2 (15)	14.2 (15)	25.5 (27)	10.4 (11)	16.0 (17)	10.4 (11)	2.8 (3)	
	2.8 (3)	16.0 (17)	17.9 (19)	19.8 (21)	17.0 (18)	19.8 (21)	3.8 (4)	2.8 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

2015年度から励行している学内の自習が定着していて、肯定率の上昇につながっているものと推測する.

4.今後の方針

学科創設から8年, 二巡して, ようやく学科の特徴が明確になりつつある. フランスとドイツに協定校をつくる目算が付き, 6言語の教育を基礎にして, 学科のカリキュラムと教育を充実させていく.

1.概評

今回の授業改善報告書は88科目を対象とし、有効回答者数は1737名。総じて、学生の肯定的評価（A+B）は8割～9割を維持しており、高い満足度を維持している。

学科内における前学期との比較では、すべての項目で、肯定的評価の数値が上昇しており、学生の満足度が全体として改善したと評価できる。

。次学期も引き続き、学生の事前準備（シラバス閲読）を促し、学習環境や教育内容の充実を目指す。具体的には、学科の特色である英語教育の強化やPBL教育を中心に、教授法の開発やICTの活用を進めて参りたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	1.1 (1)	4.5 (4)	12.5 (11)	17.0 (15)	13.6 (12)	21.6 (19)	14.8 (13)	6.8 (6)	4.5 (4)	3.4 (3)	[学生] ①シラバスの閲覧、②講義への取り組み姿勢、③授業外学習、④講義到達目標、のいずれにおいても、肯定的評価が9割前後であり、概ね良好である。また、前学期と比較して、全項目で肯定的な意見が増加したことは、評価できる。 特に、①と②に関しては、前学期と比較するとボリュームゾーンが上方にシフトしており、改善が見られた。 ①シラバス閲読に関しては、次学期以降（平成29年度前期）、新入生のみ、学科登録を取りやめ、各自が履修登録を行う方法へ転換する為、事前のシラバス閲覧などの習慣が身につくことが期待される。
	3.4 (3)	4.5 (4)	17.0 (15)	23.9 (21)	28.4 (25)	18.2 (16)	3.4 (3)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	1.1 (1)	3.4 (3)	8.0 (7)	4.5 (4)	12.5 (11)	25.0 (22)	20.5 (18)	14.8 (13)	4.5 (4)	5.7 (5)	
	5.7 (5)	4.5 (4)	19.3 (17)	22.7 (20)	21.6 (19)	20.5 (18)	4.5 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	
3	2.3 (2)	0.0 (0)	2.3 (2)	5.7 (5)	18.2 (16)	21.6 (19)	22.7 (20)	12.5 (11)	10.2 (9)	4.5 (4)	
	5.7 (5)	13.6 (12)	15.9 (14)	30.7 (27)	13.6 (12)	18.2 (16)	0.0 (0)	2.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	2.3 (2)	8.0 (7)	19.3 (17)	15.9 (14)	9.1 (8)	26.1 (23)	11.4 (10)	2.3 (2)	3.4 (3)	2.3 (2)	
	1.1 (1)	4.5 (4)	6.8 (6)	18.2 (16)	18.2 (16)	21.6 (19)	23.9 (21)	4.5 (4)	1.1 (1)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	8.0 (7)	9.1 (8)	14.8 (13)	19.3 (17)	21.6 (19)	15.9 (14)	5.7 (5)	5.7 (5)	[授業[内容]] ⑤シラバス記載内容の実質化、⑥授業内容の理解については、両項目において肯定的評価が95%前後になっている。また、前学期と比較した場合、肯定的評価は両項目において改善している。これらの項目のさらなる満足度上昇を目指し、学科内において、教員間で知識定着を促す仕組みの開発（事前学習課題の提供、反転授業、プレゼンテーション、フィードバック）を進めていきたい。
	5.7 (5)	4.5 (4)	21.6 (19)	21.6 (19)	18.2 (16)	15.9 (14)	10.2 (9)	2.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	1.1 (1)	1.1 (1)	6.8 (6)	8.0 (7)	17.0 (15)	21.6 (19)	19.3 (17)	13.6 (12)	9.1 (8)	2.3 (2)	
	1.1 (1)	11.4 (10)	13.6 (12)	23.9 (21)	22.7 (20)	23.9 (21)	2.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.1 (1)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	8.0 (7)	8.0 (7)	9.1 (8)	13.6 (12)	18.2 (16)	22.7 (20)	13.6 (12)	6.8 (6)	[授業[教え方等]] ⑦教員の説明、⑧聞き取りやすさ、⑨講義の進め方、のすべての項目で、肯定的評価が95%前後となっており、かつ、大学全体の平均よりも高いという結果で概ね問題はないと考えられる。 本学科では、日頃より、学年ごとや分野ごとに定期的に教員ミーティングを開催。教員間で指導法や教材の情報共有がなされ、相互指導が進んでいる。今回の肯定的評価は、これらの活動が評価されたものと考察される。 今後も、教員各自が教育の質を改善していくとともに、教員間の授業アイデア共有を積極的に進めていくことで、更なる授業の質向上を目指す。
	5.7 (5)	17.0 (15)	26.1 (23)	21.6 (19)	13.6 (12)	13.6 (12)	1.1 (1)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	5.7 (5)	6.8 (6)	11.4 (10)	11.4 (10)	21.6 (19)	20.5 (18)	15.9 (14)	6.8 (6)	
	6.8 (6)	15.9 (14)	26.1 (23)	21.6 (19)	11.4 (10)	15.9 (14)	2.3 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	8.0 (7)	11.4 (10)	8.0 (7)	14.8 (13)	22.7 (20)	17.0 (15)	10.2 (9)	8.0 (7)	
	6.8 (6)	11.4 (10)	22.7 (20)	26.1 (23)	14.8 (13)	12.5 (11)	4.5 (4)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	10.2 (9)	15.9 (14)	18.2 (16)	19.3 (17)	18.2 (16)	13.6 (12)	4.5 (4)	[環境・設備等] 環境・設備に関しては、大学全体の評価よりも若干低い。 ⑩学習環境に関しては、設備の観点から、早急な解決が難しい面もあるが、曜講の工夫や教室選択の面に対応していきたい。 ⑪参考書に関しては、前学期よりも評価が上昇、ボリュームゾーンが上方へ推移。本学科では、PBLを中心に、ビジネスの最前線を扱う為、参考書が書籍化されておらず、雑誌やDVD、動画などのデジタルコンテンツの利用頻度が高い。図書館との連携をさらに強化し、当該領域の専門書や雑誌検索データベースの充実を継続して図る
	6.8 (6)	14.8 (13)	25.0 (22)	23.9 (21)	22.7 (20)	6.8 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	1.1 (1)	2.3 (2)	11.4 (10)	15.9 (14)	21.6 (19)	23.9 (21)	15.9 (14)	4.5 (4)	0.0 (0)	3.4 (3)	
	4.5 (4)	6.8 (6)	17.0 (15)	27.3 (24)	22.7 (20)	20.5 (18)	1.1 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学科独自の設問は設けていない。今後は、学科の特色であるプロジェクト学習やケーススタディの学びを評価できる設問を検討していく予定である。

4.今後の方針

- 1) 次学期(平成29年度度4月)より、初年次対象の経済・経営系の基礎専門科目については、6科目体制を導入する。経営・経済分野の入門科目として科目間の連携を検討する場を立ち上げたい。
- 2) 平成30年度からは現学科は3集中領域(コース)になり、新学科「会計・ファイナンス学科」も設置予定である。今後はその方向に沿ったカリキュラムの整備作業を行う。
- 3) スキル系科目(英語やコンピュータ他)、基礎ゼミの領域における担当教員間の対話を継続し、定期的な分科会(学科内FD)を通じて、効果的な教授法の開発と共有を図る。同プログラム管理を進めるため、各領域のコーディネータの役割を強化する。
- 4) 次年度(平成29年度前期)からはE-learningにおいて、「English Central」、「ラインズドリル」を導入。授業外学習の推進と習慣化を促し、基礎力の向上を図る。
- 5) 2年次前期のポストプログラム(グローバルビジネスプログラム)について、ポストン教員との共時的なコミュニケーションを深め、教授法やプログラムメニューの発展を図る。
- 6) 講義においてはアクティブラーニングを継続して推進し、授業外学習の習慣化を通じてアウトプット(成果報告会やタームペーパー、報告書の作成など)の質の向上を図る。プロジェクト活動では、PBLの評価方法、成果の表現方法、ピア・ラーニングに取り組む学科カルチャーの醸成方法を継続的に検討する。
- 7) 学生の自主性を涵養できるよう、課題内容、提出物管理、フィードバックの工夫に努める。卒業に向けた履修計画の立案過程を通じて、学生の自律性を高める。
- 8) FD講演会、FDサロンへの参加、また学外での研修会などを通じた新たな教授法の習得に努める。
- 9) ディプロマポリシーやカリキュラムポリシーの見直し作業を開始する。

1.概評

いずれの設問においても、肯定的評価（A＋B）の割合の平均が90％前後と高い値を示し、学生の学習態度、教員の授業運営の双方に良好であることが確認できた。引き続き、学生の主体的な学びを促し、授業運営の改善に取り組んでいきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	12.1 (4)	27.3 (9)	42.4 (14)	12.1 (4)	3.0 (1)	0.0 (0)	3.0 (1)	[学生] いずれの設問も肯定的評価（A＋B）の割合の平均が90％を超え、学生の自己評価は高かった。
	3.0 (1)	0.0 (0)	9.1 (3)	21.2 (7)	54.5 (18)	12.1 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	3.0 (1)	9.1 (3)	9.1 (3)	18.2 (6)	18.2 (6)	24.2 (8)	12.1 (4)	3.0 (1)	0.0 (0)	3.0 (1)	
	3.0 (1)	0.0 (0)	3.0 (1)	18.2 (6)	21.2 (7)	39.4 (13)	9.1 (3)	6.1 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	15.2 (5)	3.0 (1)	27.3 (9)	12.1 (4)	21.2 (7)	15.2 (5)	6.1 (2)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	6.1 (2)	21.2 (7)	24.2 (8)	33.3 (11)	15.2 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	3.0 (1)	15.2 (5)	12.1 (4)	27.3 (9)	21.2 (7)	12.1 (4)	6.1 (2)	3.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (1)	9.1 (3)	9.1 (3)	42.4 (14)	27.3 (9)	9.1 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (1)	6.1 (2)	18.2 (6)	33.3 (11)	18.2 (6)	15.2 (5)	3.0 (1)	3.0 (1)	[授業[内容]] いずれの設問も肯定的評価（A＋B）の割合の平均は85％以上で、授業内容に関する評価も概ね良好といえよう。ただし、「理解度」（設問No.6）の評価はばらつきが大きく、科目によって差がみられた。各科目で学生の理解度を高める工夫をさらにこころがける。
	3.0 (1)	3.0 (1)	18.2 (6)	24.2 (8)	24.2 (8)	27.3 (9)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	6.1 (2)	6.1 (2)	9.1 (3)	15.2 (5)	24.2 (8)	15.2 (5)	18.2 (6)	3.0 (1)	0.0 (0)	3.0 (1)	
	3.0 (1)	0.0 (0)	6.1 (2)	24.2 (8)	36.4 (12)	27.3 (9)	3.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	6.1 (2)	6.1 (2)	24.2 (8)	9.1 (3)	12.1 (4)	18.2 (6)	21.2 (7)	0.0 (0)	3.0 (1)	[授業[教え方等]] いずれの設問も肯定的評価（A＋B）の割合の平均は85％以上で、教え方に関する評価も概ね良好といえよう。ただし、「説明の明快さ」（設問No.7）と「進め方」（設問No.9）については評価にややばらつきが見られた。さまざまな学生がいるなか、多くの学生が理解しやすい授業運営をこころがけていく。
	3.0 (1)	6.1 (2)	18.2 (6)	24.2 (8)	30.3 (10)	18.2 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (1)	15.2 (5)	12.1 (4)	15.2 (5)	21.2 (7)	27.3 (9)	3.0 (1)	3.0 (1)	
	3.0 (1)	6.1 (2)	30.3 (10)	33.3 (11)	15.2 (5)	12.1 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	6.1 (2)	9.1 (3)	12.1 (4)	18.2 (6)	21.2 (7)	15.2 (5)	12.1 (4)	3.0 (1)	3.0 (1)	
	3.0 (1)	6.1 (2)	15.2 (5)	21.2 (7)	39.4 (13)	15.2 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (1)	12.1 (4)	36.4 (12)	21.2 (7)	18.2 (6)	6.1 (2)	3.0 (1)	[環境・設備等] いずれの設問も肯定的評価（A＋B）の割合の平均が90％を超え、学習環境についての評価は高かった。
	3.0 (1)	12.1 (4)	24.2 (8)	42.4 (14)	15.2 (5)	3.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	6.1 (2)	3.0 (1)	24.2 (8)	21.2 (7)	30.3 (10)	9.1 (3)	3.0 (1)	0.0 (0)	3.0 (1)	
	3.0 (1)	0.0 (0)	6.1 (2)	24.2 (8)	39.4 (13)	21.2 (7)	3.0 (1)	3.0 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学科の専門教育科目を必修科目群(6科目)と選択科目群(20科目)に分け、各設問の肯定的評価の割合を比較した。前期と同様、必修科目に比べ選択科目において「授業理解度」(No.6)や「到達目標の達成」(No.4)などの評価が高かった(「授業理解度」の平均は必修科目75%に対し選択科目89%、「到達目標の達成」の平均は必修科目84%に対し選択科目92%)。必修科目の中でも特に統計に関する科目において評価が低い傾向があり、また選択科目においては比較的新しい非常勤教員の科目で評価が低い傾向がみられた。

4.今後の方針

統計に関する科目については、平成29年度より2年次必修の「データ解析実習Ⅰ」の担当教員数を増やし、基礎的な統計分析技法について少人数クラスでの理解と習得を促す。また、平成30度より開始を予定している公認心理師資格対応カリキュラムの導入に伴い、学科カリキュラムの大幅な改革を行う過程において、学生の関心や基礎学力の個人差への対応も検討したい。また、非常勤教員との連携の強化もこころがけていきたい。

1.概評

本学科では、回答者数2,195名のアンケート集計の結果、各質問による平均肯定率は、学生の授業態度（問1～問4）95.6%（H27年後期96.4%）、教員による授業内容（問5～問9）95.0%（H27年度後期96.0%）、学習環境（問10～問11）96.5%（H27年度後期96.0%）で、前年度とほぼ同様（項目間で比較した場合、割合の傾向も昨年度同様のレベル）の高い評価であった。特に、問5（シラバスに沿った授業）の評価が最も高い97%を示しており、適切な授業運営への取り組みが評価につながったと考えられる。参考図書の整備状況については、昨年度よりさらに評価が上がっており、今後も教員および学生への図書リクエストを計画的に実施し、図書館及び資料室の図書の整備を図り、学習の充実へとつなげていきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	1.3 (1)	0.0 (0)	1.3 (1)	6.3 (5)	11.3 (9)	23.8 (19)	22.5 (18)	16.3 (13)	13.8 (11)	3.8 (3)	[学生] 問1～問4の全ての項目において、昨年度とほぼ同水準の高い肯定的な評価が示された。中でも問1（シラバスの事前確認）は、大学全体より2.3ポイント高い。教員による授業内容に関する事前説明や、資格指定科目が多いことから、学生が意欲的かつ積極的に授業の事前事後の学習に取り組む姿勢がうかがえる。今後は、さらに学生の授業への積極的な参加向上を図っていけるよう、教員に働きかけていく。
	5.0 (4)	16.3 (13)	16.3 (13)	31.3 (25)	22.5 (18)	6.3 (5)	0.0 (0)	1.3 (1)	0.0 (0)	1.3 (1)	
2	1.3 (1)	1.3 (1)	5.0 (4)	6.3 (5)	20.0 (16)	18.8 (15)	17.5 (14)	11.3 (9)	13.8 (11)	5.0 (4)	
	5.0 (4)	16.3 (13)	13.8 (11)	16.3 (13)	26.3 (21)	11.3 (9)	7.5 (6)	1.3 (1)	2.5 (2)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	1.3 (1)	2.5 (2)	6.3 (5)	21.3 (17)	13.8 (11)	17.5 (14)	11.3 (9)	15.0 (12)	11.3 (9)	
	12.5 (10)	11.3 (9)	20.0 (16)	20.0 (16)	16.3 (13)	15.0 (12)	3.8 (3)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	2.5 (2)	2.5 (2)	3.8 (3)	16.3 (13)	18.8 (15)	27.5 (22)	7.5 (6)	10.0 (8)	7.5 (6)	3.8 (3)	
	2.5 (2)	10.0 (8)	10.0 (8)	8.8 (7)	32.5 (26)	22.5 (18)	10.0 (8)	2.5 (2)	1.3 (1)	0.0 (0)	
5	1.3 (1)	0.0 (0)	6.3 (5)	3.8 (3)	6.3 (5)	12.5 (10)	23.8 (19)	20.0 (16)	13.8 (11)	12.5 (10)	[授業[内容]] 問5（授業内容の理解）において、昨年度より1.3ポイント低い評価であった。1年の学科必修科目として初めて導入したプロジェクト型学習及び医学系・保育系・語学系の授業内容の難易度が影響していると考えられる。学科の強みでもある専門職養成への取り組みとして、これらの科目における授業内容の工夫を図っていく。
	10.0 (8)	18.8 (15)	18.8 (15)	25.0 (20)	12.5 (10)	10.0 (8)	2.5 (2)	0.0 (0)	1.3 (1)	1.3 (1)	
6	1.3 (1)	2.5 (2)	7.5 (6)	8.8 (7)	12.5 (10)	15.0 (12)	21.3 (17)	10.0 (8)	12.5 (10)	8.8 (7)	
	7.5 (6)	15.0 (12)	10.0 (8)	28.8 (23)	20.0 (16)	12.5 (10)	1.3 (1)	2.5 (2)	1.3 (1)	1.3 (1)	
7	2.5 (2)	1.3 (1)	6.3 (5)	2.5 (2)	10.0 (8)	13.8 (11)	17.5 (14)	13.8 (11)	8.8 (7)	23.8 (19)	[授業[教え方等]] 問7（説明の明快性）、問8（よく聞き取れたか）、問9（授業の進め方）については、昨年度よりやや低くなっているが、大学全体の平均と大きな差は見られなかった。次年度は授業担当者の変更もあるため、昨年度の板書やパワーポイントの使用、事例を含めたわかりやすい授業の進め方等の授業工夫に関する取組を共有するなど、今後も各授業担当者に働きかけていく。
	18.8 (15)	21.3 (17)	10.0 (8)	25.0 (20)	11.3 (9)	11.3 (9)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.3 (1)	
8	1.3 (1)	2.5 (2)	1.3 (1)	6.3 (5)	8.8 (7)	12.5 (10)	17.5 (14)	16.3 (13)	7.5 (6)	26.3 (21)	
	22.5 (18)	13.8 (11)	16.3 (13)	21.3 (17)	13.8 (11)	10.0 (8)	1.3 (1)	0.0 (0)	1.3 (1)	0.0 (0)	
9	2.5 (2)	1.3 (1)	5.0 (4)	6.3 (5)	8.8 (7)	15.0 (12)	16.3 (13)	12.5 (10)	13.8 (11)	18.8 (15)	
	16.3 (13)	20.0 (16)	13.8 (11)	17.5 (14)	21.3 (17)	8.8 (7)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.3 (1)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.3 (1)	6.3 (5)	5.0 (4)	10.0 (8)	18.8 (15)	22.5 (18)	18.8 (15)	17.5 (14)	[環境・設備等] 問10（学習環境）及び問11（参考図書の充実）ともに大学全体に比べ、高い肯定的な評価を得ている。とりわけ、問11については、昨年度から学科の資料室をはじめ、図書館の充実に向けて、学科内会議等で図書、資料に関するリクエストを募る等、計画的に実施してきた成果であると考えられる。引き続き、人数に応じた教室の確保や、学習環境の改善に向けて努力していく。
	17.5 (14)	18.8 (15)	30.0 (24)	20.0 (16)	3.8 (3)	5.0 (4)	3.8 (3)	1.3 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	1.3 (1)	0.0 (0)	2.5 (2)	5.0 (4)	12.5 (10)	25.0 (20)	20.0 (16)	15.0 (12)	13.8 (11)	5.0 (4)	
	5.0 (4)	12.5 (10)	15.0 (12)	31.3 (25)	23.8 (19)	6.3 (5)	3.8 (3)	0.0 (0)	1.3 (1)	1.3 (1)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

本学科は社会福祉士、精神保健福祉士、保育士の3資格(平成29年度からは言語聴覚士を含む)を養成していく上で、新カリキュラム体制で学科の強みを生かした科目配置をしていたが、新たに導入した科目等において、学生の授業への理解度及び教員の説明の明快性等について、相対的に低い評価となった。今後、上記の科目については教員の入れ替わりもあることから、学科の新体制に合わせて対策を考えていきたい。また、今後非常勤懇談科会等を通して、担当教員間で新カリキュラム体制に関する意見交換を行い、効果的な授業運営について検討していく。

4.今後の方針

1. 教務部委員によるガイダンスの一層の工夫

平成29年度から言語聴覚士コースを導入するなど、新たなカリキュラム編成となるため、学生が科目構成や体系について十分理解し、科目履修できるよう教務部委員によるガイダンスの一層の工夫と強化を図る。

2. 常勤、非常勤教員間の連携強化

新たなコースの設置に伴い、科目数の増加及び、新・旧カリキュラムの移行期間であることから、学生に不利益が生じないよう、学科教員間での情報の共有化を図り、新たな教育理念に基づき全教員が取組めるよう、学科内公開授業の開催や非常勤懇談科会の場を通して教員間の連携を強化していく。また国家試験対策として、各資格科目の授業内容に国家試験の傾向を含めていく等、教員全体で合格率向上に向けた取り組みを強化していく。

1.概評

後期開設科目115科目、回答者数3,436人のアンケート結果である。いずれの設問においても、肯定的評価（A＋B）の割合の平均が93%以上と高い値を示し、学生の学習態度、教員の授業運営ともに良好であることが確認できた。

ソーシャル・スタディーズ、メディア・スタディーズ、グローバル・スタディーズの3つのスタディーズを設けたカリキュラムがスタートして4年が経過し、本カリキュラムでの最初の卒業生を送り出した。各スタディーズでの学びの体系が学生に周知されてきた。

授業公開をスタディーズごとに実施し、授業後に教員間でディスカッションを行い、お互いの授業の関係性や方向性を確認し合っている。これらの成果を、平成29年度のカリキュラムに活かし、検討を行った。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A、B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。

（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	3.5 (4)	4.3 (5)	13.0 (15)	22.6 (26)	29.6 (34)	15.7 (18)	7.0 (8)	4.3 (5)	[学生] 肯定的評価（A＋B）の割合の平均は、シラバスによる事前確認（no.1）が93%、授業への積極的取り組み（no.2）、授業外での学習（no.3）は96%、シラバスの「到達目標」の達成（no.4）は95%と、いずれの設問も高い評価を示した。授業外の学習については、若干ではあるが前年度を0.6ポイント上回った。 英語に関しては、授業外での学習をさらに進めるため、e-learningの学習の徹底に向けて非常勤教員を含め話し合いを行い、授業外の学習時間を確保するよう検討した。
	4.3 (5)	11.3 (13)	26.1 (30)	32.2 (37)	19.1 (22)	7.0 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	2.6 (3)	6.1 (7)	14.8 (17)	29.6 (34)	20.0 (23)	13.9 (16)	9.6 (11)	3.5 (4)	
	3.5 (4)	13.0 (15)	18.3 (21)	22.6 (26)	27.0 (31)	12.2 (14)	3.5 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.9 (1)	2.6 (3)	1.7 (2)	13.0 (15)	15.7 (18)	25.2 (29)	15.7 (18)	18.3 (21)	7.0 (8)	
	7.8 (9)	19.1 (22)	18.3 (21)	32.2 (37)	13.9 (16)	5.2 (6)	1.7 (2)	1.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	1.7 (2)	10.4 (12)	21.7 (25)	17.4 (20)	24.3 (28)	10.4 (12)	9.6 (11)	3.5 (4)	0.9 (1)	
	0.0 (0)	4.3 (5)	13.9 (16)	11.3 (13)	27.8 (32)	25.2 (29)	13.9 (16)	3.5 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	2.6 (3)	4.3 (5)	25.2 (29)	20.0 (23)	20.9 (24)	16.5 (19)	10.4 (12)	[授業[内容]] 肯定的評価（A＋B）の割合の平均は、「授業はシラバスに記載された内容で行われたか」(no.5)は97%、「授業内容の理解」(no.6)は94%であった。昨年度に比べ、0.1～0.3ポイント減少したものの、高評価といえる。基礎ゼミとして開講している「現代教養入門」は、担当教員間でディスカッションをし、シラバスの内容も充実してきた。卒業論文の成果へつながるように、スタディーズごとに教員間で連携をとっている。授業外での学習時間を増やすことは、授業内容の理解を高めることに繋がるはずである。
	11.3 (13)	13.9 (16)	31.3 (36)	20.0 (23)	18.3 (21)	4.3 (5)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.9 (1)	3.5 (4)	11.3 (13)	14.8 (17)	18.3 (21)	22.6 (26)	13.9 (16)	11.3 (13)	3.5 (4)	
	2.6 (3)	14.8 (17)	17.4 (20)	28.7 (33)	22.6 (26)	11.3 (13)	1.7 (2)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	2.6 (3)	4.3 (5)	15.7 (18)	9.6 (11)	20.0 (23)	14.8 (17)	14.8 (17)	18.3 (21)	[授業[教え方等]] 肯定的評価（A＋B）の割合の平均は、「教員の説明の明快さ」(no.7)、は95%、「教員の話が良く聞き取れたか」(no.8)は96%で、昨年度と同様の結果であった。「授業の進め方は内容等を理解するうえで効果的であったか」(no.9)は94%で昨年度よりは0.5ポイント減少した。これら教え方等について詳細をみると、評価に多少ばらつきが見られる。これは、授業のタイプによっては、Power Pointや映像等の教材の使用の有無や、配付資料の量の差があると思われる、その差が評価に違いを生んでいるとも考えられる。少人数の授業は教員の話は良く聞き取れており、内容の理解につながっている。授業外で質問を受ける等の個別対応も肯定的な評価に影響していると考えられる。
	19.1 (22)	15.7 (18)	23.5 (27)	17.4 (20)	17.4 (20)	7.0 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	0.9 (1)	4.3 (5)	7.0 (8)	13.9 (16)	17.4 (20)	16.5 (19)	21.7 (25)	18.3 (21)	
	20.0 (23)	21.7 (25)	21.7 (25)	24.3 (28)	8.7 (10)	3.5 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	2.6 (3)	7.8 (9)	15.7 (18)	12.2 (14)	14.8 (17)	14.8 (17)	20.0 (23)	12.2 (14)	
	13.0 (15)	22.6 (26)	16.5 (19)	21.7 (25)	19.1 (22)	7.0 (8)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	0.9 (1)	0.0 (0)	6.1 (7)	7.0 (8)	20.9 (24)	27.0 (31)	23.5 (27)	14.8 (17)	[環境・設備等] 学習環境については、肯定的評価（A＋B）の割合の平均は、「人数、部屋の広さ」(no.10)は96%、「参考書が図書館に揃っているか」(no.11)は94%と高評価であった。どちらも昨年度に比べ、0.6～1.0ポイント増加した。しかしながら、学習環境について、評価の割合ごとの科目数の割合をみると、多少ばらつきがみられる。一部授業内容に即した適切な教室を使用できていないことによると思われる。
	16.5 (19)	28.7 (33)	34.8 (40)	16.5 (19)	1.7 (2)	1.7 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.9 (1)	4.3 (5)	13.9 (16)	22.6 (26)	27.8 (32)	18.3 (21)	8.7 (10)	3.5 (4)	
	3.5 (4)	12.2 (14)	28.7 (33)	33.9 (39)	13.9 (16)	5.2 (6)	1.7 (2)	0.9 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	

() は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

現代教養学科では、参加型の授業を強化するための授業方法を教員間で検討しているが、それに対応した教室が不足している。この点が学生の学習環境の評価のばらつきに表れていると考える。また、学生自身が授業にどれだけ興味を持って積極的に取り組めるか、ということが一つの授業の評価にも繋がっていくと思われる。受け身ではなく、自主的な授業参加を促すような授業運営について、学科でも引き続き話し合っていきたい。

4.今後の方針

受講人数の多い少ないや、必修か選択か、講義か演習か等でも授業に対する学生のモチベーションには違いが出てくると思う。授業に必要な設備の整った教室、もしくは適切な広さの教室が十分に確保できているわけではない。普通教室が適切であるが、空教室がないためやむを得ずコンピューター教室を使用している場合もある。適正な人数での授業実施を心がけているが、教室確保が難しいのが現状である。PBL科目、アクティブ・ラーニング科目に対応した教室を増やしてほしい。参考書の充実度に対する評価の向上は、図書館と連携して参考書の充実に努めた結果である。さらなる充実を図っていきたい。

1.概評

全体的に、肯定的評価の割合がすべて95%と非常に高い値を示し、学生の授業態度および今日委員の授業運営ともに良好であることがわかる。とくに学生の授業中および授業外で課題に取り組む項目の評価が上昇しており、学生の自学自習に対する意識が高まっていることがうかがえる。引き続き、高評価が維持できるよう教員側の意識づけや授業方法も含めて改善に取り組んでいきたい。例年のことだが、環境に関する評価は他の評価に比べて低くなっているが、29年度からは教室からロッカーもなくなり、多少は部屋が広くなり、また授業中に荷物を取りに行く事態も解消されたので、今後の評価を期待したい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≤ <10	10≤ <20	20≤ <30	30≤ <40	40≤ <50	50≤ <60	60≤ <70	70≤ <80	80≤ <90	90≤ ≤100	考察
1	0.0 (0)	0.0 (0)	2.4 (2)	10.7 (9)	19.0 (16)	19.0 (16)	20.2 (17)	15.5 (13)	9.5 (8)	3.6 (3)	[学生] すべての項目において肯定的評価の割合が高い結果となっている。とくにシラバス確認については昨年に比べてA評価の割合が非常に高くなっており、シラバスを確認させる学科としての指導が浸透してきたと思われる。また学生の授業に対する姿勢や授業外での学習に対する取り組みについても、非常に高い状態を維持しており、免許状や資格を取得するという明確な目的のために自主的な学習に取り組む姿勢がうかがえる。「到達目標」の達成についても高く評価した割合が昨年に比べて増えている。今後もさらに学生への目標意識の明確化をこころがけ、学習の動機付けを高めていきたい。
	3.6 (3)	9.5 (8)	22.6 (19)	21.4 (18)	22.6 (19)	14.3 (12)	4.8 (4)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	0.0 (0)	1.2 (1)	9.5 (8)	14.3 (12)	22.6 (19)	16.7 (14)	7.1 (6)	20.2 (17)	8.3 (7)	
	8.3 (7)	23.8 (20)	7.1 (6)	21.4 (18)	16.7 (14)	14.3 (12)	7.1 (6)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	0.0 (0)	2.4 (2)	10.7 (9)	11.9 (10)	14.3 (12)	17.9 (15)	17.9 (15)	15.5 (13)	9.5 (8)	
	10.7 (9)	16.7 (14)	20.2 (17)	17.9 (15)	16.7 (14)	15.5 (13)	1.2 (1)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	1.2 (1)	6.0 (5)	16.7 (14)	16.7 (14)	17.9 (15)	14.3 (12)	17.9 (15)	6.0 (5)	3.6 (3)	
	3.6 (3)	7.1 (6)	20.2 (17)	10.7 (9)	21.4 (18)	20.2 (17)	11.9 (10)	4.8 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	0.0 (0)	2.4 (2)	4.8 (4)	8.3 (7)	21.4 (18)	17.9 (15)	22.6 (19)	15.5 (13)	7.1 (6)	[授業[内容]] 授業内容とシラバスとの整合性および授業内容の理解度に関わる項目は例年にくらべてほぼ変化がなく肯定的評価を得ている。各教員がシラバスに記載した内容で授業を展開し、学生もよく理解していることがうかがえる。シラバスの内容記載の明確化に対する取り組みが成果をあげてきていると思われる。
	7.1 (6)	15.5 (13)	25.0 (21)	23.8 (20)	16.7 (14)	10.7 (9)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	0.0 (0)	4.8 (4)	8.3 (7)	9.5 (8)	26.2 (22)	14.3 (12)	11.9 (10)	15.5 (13)	9.5 (8)	
	9.5 (8)	16.7 (14)	13.1 (11)	19.0 (16)	25.0 (21)	11.9 (10)	4.8 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	0.0 (0)	6.0 (5)	4.8 (4)	10.7 (9)	17.9 (15)	13.1 (11)	20.2 (17)	14.3 (12)	13.1 (11)	[授業[教え方等]] 授業の教え方についても、すべての項目において肯定的評価、とくにA評価の割合が非常に高く、教員の授業改善に対する取り組みが適切であったことがうかがえる。ただ同内容の授業でもクラスによる評価の違いが生じている科目もあり、クラスの雰囲気などによる要因が作用したり、学生の学習に対するモチベーションの違いが原因となっている場合もある。今後も授業公開などを通じて教員がより明快でわかりやすい授業を展開できるよう継続的な改善を図っていききたい。
	13.1 (11)	16.7 (14)	20.2 (17)	22.6 (19)	14.3 (12)	13.1 (11)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	0.0 (0)	1.2 (1)	8.3 (7)	10.7 (9)	16.7 (14)	10.7 (9)	21.4 (18)	15.5 (13)	15.5 (13)	
	16.7 (14)	16.7 (14)	23.8 (20)	15.5 (13)	17.9 (15)	8.3 (7)	1.2 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	0.0 (0)	0.0 (0)	6.0 (5)	8.3 (7)	9.5 (8)	13.1 (11)	17.9 (15)	16.7 (14)	17.9 (15)	10.7 (9)	
	11.9 (10)	17.9 (15)	21.4 (18)	22.6 (19)	14.3 (12)	11.9 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.2 (1)	3.6 (3)	9.5 (8)	26.2 (22)	17.9 (15)	21.4 (18)	10.7 (9)	9.5 (8)	[環境・設備等] 学習環境については、例年通り、教室が狭く息苦しいなどの意見が多かった。また学習環境とはいえないが、8号館のトイレに対する不満が多かった。休み時間に毎回かなりの長蛇の列になるので、授業時間の確保という点においては多少関係するのかもしれない。
	11.9 (10)	11.9 (10)	29.8 (25)	21.4 (18)	17.9 (15)	7.1 (6)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	8.3 (7)	19.0 (16)	25.0 (21)	20.2 (17)	17.9 (15)	3.6 (3)	6.0 (5)	
	6.0 (5)	8.3 (7)	21.4 (18)	29.8 (25)	22.6 (19)	8.3 (7)	3.6 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

教員免許状取得や保育士資格取得のために、履修すべき科目がほぼ決まっている状況であり、これまではシラバスを確認するという認識も学生のほうにあまりなかったが、ここ数年、限られた選択科目でも学生自身の意思によって選択させ、学生登録させるという履修指導を心がけてきたので、学生自身にも自己責任において履修するという意識が生じてきたと思われる。教員養成学科という特性もあり、教員の授業改善に対する意識や意欲は高い。

4.今後の方針

継続的な授業改善の成果として、とくに学生の主体的、積極的姿勢が上昇してきていることは評価できる。これまでと同様、今後もより充実した授業を展開していけるよう、学科全体として取り組みたい。29年度も引き続き、授業公開および協議会をひらき、学科全体での授業改善に対する意識向上および授業の質的改善を図る機会を設けていきたい。

1.概評
昨年度より導入されたフォーマットの為、過去1年分のデータとの比較のみしか行えないものの、おおむねその傾向は旧来通りであるとする。なお各設問の肯定率の比較では、1項目のみが横ばい、その他いずれの項目においても若干の評価の上昇が確認された。今後もこうした小さな改善を継続的に積み上げ、現況評価の維持、そして更なる向上に努めたい。

2.各質問の評価とその考察
各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.7 (1)	0.7 (1)	2.2 (3)	7.2 (10)	12.9 (18)	23.7 (33)	23.0 (32)	19.4 (27)	6.5 (9)	3.6 (5)	[学生] A+Bの評価率(%)は、H28後期／H27後期において設問 1 (95.2/94.5)、設問2(96.4/96.0)、設問3(96.5/95.8)、設問4(94.7/93.3)と各設問ともに微増となった。 これより学期初めのガイダンスや、授業内・外での学習指導が、学生への授業の目的、内容の周知に対して比較的うまく機能していると考えられ、特に設問4シラバス示された「到達目標」に対する回答は1.4%の増となっており、引き続きこの状況を継続していきたい。
	3.6 (5)	9.4 (13)	25.9 (36)	28.1 (39)	16.5 (23)	12.2 (17)	1.4 (2)	1.4 (2)	0.7 (1)	0.7 (1)	
2	0.7 (1)	0.7 (1)	5.8 (8)	6.5 (9)	15.1 (21)	21.6 (30)	24.5 (34)	12.9 (18)	8.6 (12)	3.6 (5)	
	3.6 (5)	6.5 (9)	21.6 (30)	24.5 (34)	21.6 (30)	13.7 (19)	6.5 (9)	0.7 (1)	0.7 (1)	0.7 (1)	
3	0.0 (0)	0.7 (1)	4.3 (6)	5.0 (7)	10.1 (14)	15.1 (21)	25.2 (35)	21.6 (30)	13.7 (19)	4.3 (6)	
	4.3 (6)	15.1 (21)	23.7 (33)	28.1 (39)	12.2 (17)	12.2 (17)	2.9 (4)	0.0 (0)	1.4 (2)	0.0 (0)	
4	0.7 (1)	6.5 (9)	7.9 (11)	11.5 (16)	18.0 (25)	25.2 (35)	17.3 (24)	8.6 (12)	3.6 (5)	0.7 (1)	
	2.2 (3)	2.9 (4)	10.1 (14)	21.6 (30)	26.6 (37)	19.4 (27)	11.5 (16)	3.6 (5)	2.2 (3)	0.0 (0)	
5	0.7 (1)	1.4 (2)	2.9 (4)	6.5 (9)	10.1 (14)	20.9 (29)	22.3 (31)	18.0 (25)	11.5 (16)	5.8 (8)	[授業[内容]] A+Bの評価率(%)は、H28後期／H27後期において設問5(96.6/96.6)が同率、設問6(93.3/92.8)が微増という結果となった。 このうち設問6、授業内容の理解に関する事項に関しては、0.5%の増が確認され、引き続きなお一層の授業内容の明確化、伝達方法を工夫していきたい。
	5.0 (7)	11.5 (16)	25.2 (35)	21.6 (30)	19.4 (27)	10.1 (14)	3.6 (5)	2.2 (3)	1.4 (2)	0.0 (0)	
6	1.4 (2)	6.5 (9)	5.0 (7)	9.4 (13)	10.1 (14)	23.7 (33)	16.5 (23)	18.0 (25)	7.2 (10)	2.2 (3)	
	2.9 (4)	7.2 (10)	23.7 (33)	18.0 (25)	27.3 (38)	10.1 (14)	8.6 (12)	0.7 (1)	0.7 (1)	0.7 (1)	
7	3.6 (5)	2.9 (4)	5.8 (8)	5.0 (7)	10.1 (14)	19.4 (27)	16.5 (23)	15.8 (22)	14.4 (20)	6.5 (9)	[授業[教え方等]] A+Bの評価率(%)は、H28後期／H27後期において設問7(93.2/92.5)、設問8(94.5/94.1)、設問9(92.8/92.4)と各設問ともに微増となった。 このうち設問7教員の説明は明快であったかという項目に関しては、0.7%の増となっており、教員個々の努力が少なからず結果として表れたのではと期待したい。
	5.0 (7)	15.1 (21)	24.5 (34)	17.3 (24)	20.9 (29)	9.4 (13)	5.8 (8)	2.2 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	1.4 (2)	3.6 (5)	4.3 (6)	5.8 (8)	10.8 (15)	17.3 (24)	12.9 (18)	20.1 (28)	18.0 (25)	5.8 (8)	
	5.8 (8)	16.5 (23)	24.5 (34)	15.8 (22)	19.4 (27)	13.7 (19)	2.2 (3)	1.4 (2)	0.7 (1)	0.0 (0)	
9	3.6 (5)	2.9 (4)	4.3 (6)	8.6 (12)	10.8 (15)	17.3 (24)	19.4 (27)	15.8 (22)	11.5 (16)	5.8 (8)	
	4.3 (6)	15.1 (21)	23.0 (32)	19.4 (27)	18.7 (26)	10.8 (15)	5.8 (8)	1.4 (2)	1.4 (2)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.7 (1)	2.2 (3)	6.5 (9)	10.8 (15)	18.0 (25)	20.9 (29)	23.0 (32)	12.2 (17)	5.8 (8)	[環境・設備等] A+Bの評価率(%)は、H28後期／H27後期において設問 10(94.7/93.8)、設問11(88.2/87.0)と各設問ともに1%前後の増となった。 学習環境（特に部屋の広さや空調）の向上や、学習図書の実充など、学科、大学としての継続的な取り組みが評価されたものと考えられ、引き続き学習環境・設備等の維持・改善に努めたい。
	7.2 (10)	15.1 (21)	30.2 (42)	20.1 (28)	17.3 (24)	5.8 (8)	3.6 (5)	0.0 (0)	0.7 (1)	0.0 (0)	
11	0.7 (1)	2.9 (4)	8.6 (12)	17.3 (24)	12.9 (18)	25.9 (36)	19.4 (27)	7.2 (10)	4.3 (6)	0.7 (1)	
	2.9 (4)	5.8 (8)	21.6 (30)	25.9 (36)	20.1 (28)	14.4 (20)	8.6 (12)	0.0 (0)	0.7 (1)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

本学科では、入試において理数系科目を選択せずにも入学できるシステムをとっており、このため入学生の中には高校において理数系科目をほとんど履修せずに入学してきた学生も少なくない。しかし一方で学科カリキュラムにおいては最低限の理数系科目の知識を必要とするものが少なからず存在しており、これら関連科目に関する評価が、他の演習科目などに比べ低評価となることは常である。そのため今年度は、当該事項の改善のために教員体制にも変化を加え、学生の理解向上に努めたが、やはり一部科目において特に評価が低い科目が散見された。こうした科目に関しては、授業公開等を行い、教員間で意見交換をするなどして指導方法の更なる改善に努めたい。

4.今後の方針

学科カリキュラムの中心である演習科目と、それらを補足し、より発展させるために必要な講義科目の学習バランスに関しては、例年通り偏りがみられるように思われる。こうした状況の改善の為、今後もクラスアドバイザー等による履修指導を徹底したい。また授業時間外での自宅学習の有用性についても説明し、講義科目の習熟度をなお一層向上させる取り組みを工夫したい。

1.概評

授業へのITの利用などは、基礎学力修得という点で、学生にどのような効果をもたらしているかを測定することは、難しい。しかし、数年前から導入している国家試験のためのeラーニングに取り組む習慣も定着しつつあり、効果を上げていると思われる。勉強方法は、個人によりいろいろであるが、その選択肢を多くすることで、勉強に取り組む機会をふやし、実践面にも強い効果的な教育が必要と考える。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	1.5 (1)	3.0 (2)	30.3 (20)	28.8 (19)	18.2 (12)	13.6 (9)	3.0 (2)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	[学生] 履修登録指導の際に、必ず事前に授業内容、評価方法をシラバスで確認するように指導しているが、数値が改善されない。またレポートや、課題への取り組みに少しばらつきがあるので、もう少し積極的に取り組むように指導したい。授業への参加は積極的であり、また理解度も平均して低くないが、授業ごとに即応した改善が必要と思われる部分については、工夫と検討を加え、効果的な教育方法を構築したい。
	0.0 (0)	0.0 (0)	1.5 (1)	12.1 (8)	10.6 (7)	37.9 (25)	31.8 (21)	4.5 (3)	1.5 (1)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.5 (1)	6.1 (4)	27.3 (18)	22.7 (15)	22.7 (15)	13.6 (9)	3.0 (2)	1.5 (1)	1.5 (1)	
	1.5 (1)	0.0 (0)	6.1 (4)	13.6 (9)	18.2 (12)	33.3 (22)	22.7 (15)	4.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	6.1 (4)	15.2 (10)	12.1 (8)	18.2 (12)	19.7 (13)	15.2 (10)	7.6 (5)	6.1 (4)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	4.5 (3)	10.6 (7)	13.6 (9)	25.8 (17)	19.7 (13)	16.7 (11)	7.6 (5)	1.5 (1)	0.0 (0)	
4	4.5 (3)	12.1 (8)	30.3 (20)	30.3 (20)	9.1 (6)	9.1 (6)	3.0 (2)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	1.5 (1)	3.0 (2)	10.6 (7)	12.1 (8)	40.9 (27)	18.2 (12)	12.1 (8)	1.5 (1)	
5	0.0 (0)	1.5 (1)	7.6 (5)	24.2 (16)	33.3 (22)	21.2 (14)	9.1 (6)	3.0 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	[授業[内容]] 授業の理解度は高いと思われる。科目によるばらつきがあるのは、基礎分野の科目と、応用分野の科目、また実験・実習科目によるばらつきと思われる。理論で理解したことが、実験実習で、応用できることが、現場での実践力につながると考える。各授業に対する予習と復習の時間を確保し、理解を深めるように指導したい。
	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (2)	9.1 (6)	16.7 (11)	37.9 (25)	28.8 (19)	4.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	0.0 (0)	7.6 (5)	10.6 (7)	24.2 (16)	24.2 (16)	21.2 (14)	7.6 (5)	4.5 (3)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	3.0 (2)	13.6 (9)	21.2 (14)	30.3 (20)	25.8 (17)	6.1 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	
7	0.0 (0)	4.5 (3)	7.6 (5)	12.1 (8)	27.3 (18)	13.6 (9)	21.2 (14)	10.6 (7)	3.0 (2)	0.0 (0)	[授業[教え方等]] 視聴覚施設を十分に利用することで、わかりやすい説明方法や、実習、実験についての説明もより具体的にできるので、効果的な授業ができていると思われる。授業に即した教科書、配布資料を用いることはもとより、学生のアクティブラーニングにビジュアルな資料を用いて、学生参加型の授業を取り入れるなどの工夫も見られ、教え方の工夫により、学生の意欲も増していると思われる。
	0.0 (0)	3.0 (2)	12.1 (8)	27.3 (18)	15.2 (10)	27.3 (18)	7.6 (5)	6.1 (4)	1.5 (1)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	1.5 (1)	7.6 (5)	10.6 (7)	24.2 (16)	19.7 (13)	15.2 (10)	18.2 (12)	3.0 (2)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	3.0 (2)	18.2 (12)	19.7 (13)	21.2 (14)	27.3 (18)	9.1 (6)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	1.5 (1)	4.5 (3)	7.6 (5)	12.1 (8)	25.8 (17)	21.2 (14)	19.7 (13)	7.6 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	7.6 (5)	31.8 (21)	19.7 (13)	21.2 (14)	13.6 (9)	6.1 (4)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	6.1 (4)	16.7 (11)	25.8 (17)	24.2 (16)	21.2 (14)	4.5 (3)	0.0 (0)	1.5 (1)	[環境・設備等] 教室によっては、かなり詰めて座っている時もあり、広さが十分でないと感じている。また、照明が暗く、できればもう少し明るい照明の方が、本も読みやすいのではないかと思う。2号館全体に、配水管の悪臭が発生することがあり、学生より不快感と改善を求める声が聞かれる。できる限り、改善して頂くように、要望を申請している。
	1.5 (1)	0.0 (0)	6.1 (4)	28.8 (19)	19.7 (13)	30.3 (20)	13.6 (9)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	0.0 (0)	4.5 (3)	9.1 (6)	36.4 (24)	25.8 (17)	18.2 (12)	4.5 (3)	1.5 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	0.0 (0)	1.5 (1)	13.6 (9)	25.8 (17)	48.5 (32)	10.6 (7)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

基礎科目となる化学や生物学は、より充実した基礎学力として、その向上への取り組みが欠かせないと思われる。また、グローバルな各保健に関する機関では、医学英語のスキルが必要とされることが多い。現場で活躍できる管理栄養士となるためにも高い英語力が必要とされる。専門科目としての「科学英語」を2年次に開講し、専門英語の教育を開始して2年目であるが、学生の関心は高く、経過を観察し、検討していく。

4.今後の方針

管理栄養士に必要な知識の修得、現場での実践力養成と国家試験合格という目標達成のために、基礎から応用へと段階を踏んだ科目構成としたカリキュラムで取り組んでいる。3年次に臨地実習に行くまでに一通りの知識と技術を体得するために、かなりハードな時間割であるが、1年次の新カリキュラムと合わせて、検討し、効果的な教育法を検討して行きたい。

1.概評

全体的には例年と同様の結果と言える。すなわち、学生の意欲は高く授業への取り組みにも熱心であるが、授業の内容の理解が大学全体と比較してやや低い。それは、学科の特徴として資格関連の専門科目が多く、一部の講義科目ではその内容が難解なためやや評価が低い科目があるためである。一方で実験・演習・実習科目は内容が充実しており総じて評価が高い。この現状に甘んじることなく、学生の学習意欲向上を目指した取り組みをしていきたい。

2.各質問の評価とその考察

各質問の肯定的（A，B）な評価の割合ごとの科目数の割合(%)、学科の状況と課題（前年度との比較等）。
（上段がA評価、下段がB評価）

no	0≦ <10	10≦ <20	20≦ <30	30≦ <40	40≦ <50	50≦ <60	60≦ <70	70≦ <80	80≦ <90	90≦ ≦100	考察
1	0.0 (0)	1.8 (1)	10.9 (6)	16.4 (9)	25.5 (14)	12.7 (7)	16.4 (9)	12.7 (7)	3.6 (2)	0.0 (0)	[学生] シラバス確認、および学生の授業への取り組みは積極的で、授業外での学習も十分に行っていると考えられる。「到達目標」を達成できたかという新規の質問項目も学内平均より高く、資格取得という明確な目標のある学習に一定の達成感があるものと考えられる。演習・実習・実習科目と比較して講義科目での授業外での学習がやや低い傾向があり、講義科目において自主的な学習を促す試みも必要かもしれない。この点が今後の検討課題といえる。
	0.0 (0)	7.3 (4)	14.5 (8)	18.2 (10)	9.1 (5)	30.9 (17)	16.4 (9)	1.8 (1)	1.8 (1)	0.0 (0)	
2	0.0 (0)	1.8 (1)	3.6 (2)	21.8 (12)	27.3 (15)	14.5 (8)	12.7 (7)	9.1 (5)	3.6 (2)	5.5 (3)	
	5.5 (3)	3.6 (2)	9.1 (5)	18.2 (10)	14.5 (8)	25.5 (14)	20.0 (11)	1.8 (1)	1.8 (1)	0.0 (0)	
3	0.0 (0)	1.8 (1)	9.1 (5)	12.7 (7)	16.4 (9)	18.2 (10)	16.4 (9)	16.4 (9)	5.5 (3)	3.6 (2)	
	3.6 (2)	9.1 (5)	16.4 (9)	12.7 (7)	21.8 (12)	18.2 (10)	18.2 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
4	0.0 (0)	7.3 (4)	14.5 (8)	21.8 (12)	20.0 (11)	14.5 (8)	9.1 (5)	3.6 (2)	9.1 (5)	0.0 (0)	
	0.0 (0)	7.3 (4)	7.3 (4)	10.9 (6)	18.2 (10)	20.0 (11)	23.6 (13)	9.1 (5)	3.6 (2)	0.0 (0)	
5	0.0 (0)	3.6 (2)	3.6 (2)	16.4 (9)	20.0 (11)	20.0 (11)	14.5 (8)	10.9 (6)	7.3 (4)	3.6 (2)	[授業[内容]] 今年度も昨年度に引き続き授業[内容]の項目が学内平均よりわずかに低かった。講義科目の中にやや評価の低いものがあり、内容的に理系の知識が必要なもの、主に資格取得のための食物や栄養とは少しかけ離れた専門性が必要な科目があり、それらの科目にどうしても難解な部分があるためと考えられる。一方、応用的な実習・演習科目は実生活に近い内容のものが多く、その段階になって理解が進むものと考えられる。学科として多様な専門科目を学ぶことができる点はアピールポイントであるが、その内容を本学科の学生の理解につなげる部分に課題があるといえるであろう。
	1.8 (1)	10.9 (6)	9.1 (5)	20.0 (11)	16.4 (9)	27.3 (15)	12.7 (7)	1.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
6	1.8 (1)	5.5 (3)	10.9 (6)	18.2 (10)	18.2 (10)	12.7 (7)	14.5 (8)	5.5 (3)	9.1 (5)	3.6 (2)	
	5.5 (3)	9.1 (5)	10.9 (6)	12.7 (7)	16.4 (9)	23.6 (13)	16.4 (9)	3.6 (2)	1.8 (1)	0.0 (0)	
7	1.8 (1)	3.6 (2)	9.1 (5)	12.7 (7)	20.0 (11)	7.3 (4)	18.2 (10)	12.7 (7)	9.1 (5)	5.5 (3)	[授業[教え方等]] 授業[教え方等]の項目もすべて学内平均より低かった。実際のところ科目により評価が分かれ、ここでも講義科目にやや評価の低いものがあり、一方で実習・演習科目の評価が高くなる傾向があった。ただし昨年度と比較して改善が見られた科目もあり、担当教員の改善に向けた努力がうかがえる。引き続き学科として講義科目への意欲的な取り組みを促す工夫が必要かもしれない。
	5.5 (3)	9.1 (5)	20.0 (11)	23.6 (13)	9.1 (5)	18.2 (10)	12.7 (7)	1.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
8	0.0 (0)	7.3 (4)	3.6 (2)	14.5 (8)	18.2 (10)	10.9 (6)	16.4 (9)	10.9 (6)	12.7 (7)	5.5 (3)	
	5.5 (3)	12.7 (7)	16.4 (9)	20.0 (11)	12.7 (7)	20.0 (11)	10.9 (6)	1.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
9	3.6 (2)	1.8 (1)	10.9 (6)	10.9 (6)	21.8 (12)	7.3 (4)	20.0 (11)	10.9 (6)	9.1 (5)	3.6 (2)	
	3.6 (2)	12.7 (7)	16.4 (9)	21.8 (12)	9.1 (5)	27.3 (15)	9.1 (5)	0.0 (0)	0.0 (0)	0.0 (0)	
10	0.0 (0)	0.0 (0)	1.8 (1)	9.1 (5)	21.8 (12)	25.5 (14)	14.5 (8)	12.7 (7)	9.1 (5)	5.5 (3)	[環境・設備等] 学習環境の評価は昨年と同様、高かった。資格関連科目については1クラス40名程度での授業実施が多く、大教室・大人数での授業が少ないことがその理由かもしれない。
	5.5 (3)	12.7 (7)	16.4 (9)	16.4 (9)	23.6 (13)	18.2 (10)	5.5 (3)	1.8 (1)	0.0 (0)	0.0 (0)	
11	1.8 (1)	0.0 (0)	9.1 (5)	18.2 (10)	16.4 (9)	25.5 (14)	20.0 (11)	7.3 (4)	0.0 (0)	1.8 (1)	
	1.8 (1)	0.0 (0)	18.2 (10)	25.5 (14)	10.9 (6)	23.6 (13)	18.2 (10)	0.0 (0)	0.0 (0)	1.8 (1)	

（ ）は科目数

3.学科の事情に応じた独自の分析

学科平均で見ると、すべての項目についてAと解答した学生の割合は学内平均よりも低い、A+B評価にすると「学生」「環境・設備等」の項目では学内平均を上回る。ただし「授業」の2項目は学内平均を下回っていた。これは昨年度の傾向と変わらない。学科の授業の特性として、理系の知識を必要とし、それをベースにした実験・実習を行うため、講義形式の授業の内容には当然難解な部分もありAをつけるのは難しいが、資格取得のため努力して取り組んだ結果Bという評価をする、ということなのかもしれない。また今年度の結果から、講義科目の中でも基礎的な科目よりも応用的な科目、とくに食物や栄養とは少しかけ離れた専門性が必要な科目において、内容の理解が難しい部分があることが伺えた。しかしながらそれを理由に、現状のままでよいというわけではもちろんないので、学科の授業内容の特性を踏まえた上での、さらなる改善の取り組みが必要であろう。

4.今後の方針

学科の開設している科目の特性を踏まえた上で、授業への能動的・積極的な参加と学習意欲のさらなる向上を図ることが必要になるであろう。引き続き、① 専門の基礎科目を必修化した新カリキュラムを履修している1～3年生の今後の状況の確認、② それに基づく基礎科目の指導体制のさらなる充実、③ 実習・演習の多い応用的な専門科目の内容の工夫とそれらに必要な機器設備の充実、④ それらを円滑に行うための学科内での情報交換、に取り組んでいきたい。それらに加えて、⑤ 広範な専門性が必要な科目のあり方の検討が必要かもしれない。また学科として、とくに講義科目に積極的に参加し学習意欲を向上させる継続的な取り組みが必要であろう。